



その他

環境省より、釧路湿原国立公園指定30周年について紹介が行われた。

■釧路湿原国立公園指定30周年記念事業について

- 釧路湿原国立公園は1987年7月31日に指定され、来年度で30周年を迎える。
- 記念式典及びイベント等が検討中である。

第28回 再生普及小委員会 出席者名簿(敬称略、五十音順)

個人[8名]

- 神戸 忠勝 ●木村 勲
- 貞國 利夫 [釧路市立博物館] ●清水 信彦
- 新庄 久志
- [釧路国際ウエットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)]
- 高嶋 八千代 ●高橋 忠一 ●竹中 康進

関係行政機関[5機関]

- 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [上席治水専門官/菅原 成行]
- 環境省 釧路自然環境事務所 [所長/安田 直人]
- 林野庁 北海道森林管理局 [釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長/志村 賢二]
- 北海道 釧路総合振興局 [自然環境係長/高橋克巳]
- 北海道教育庁 釧路教育局 [教育支援課社会教育指導班 主査/柴田快憲]

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
[http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro\\_wetland/index.html](http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html)

釧路湿原自然再生協議会運営事務局  
[TEL]0154-23-1353 [FAX]0154-24-6839

団体[7団体]

- 釧路国際ウエットランドセンター [事務局長/菊地 義勝]
- 釧路武佐の森の会 [会長/大西 英一]
- 公益財団法人北海道環境財団 [事務局次長/久保田 学]
- こどもエコクラブくしろ [近藤 一燈美]
- 特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所 [渡會 敏明]
- 特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG [代表/照井 滋晴]
- 特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子]

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAXにて事務局まで御連絡下さい。

釧路湿原  
自然再生  
協議会

再生普及小委員会  
ニュースレター

編集・発行：釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

平成28年12月16日(金)「第28回 再生普及小委員会」が釧路地方合同庁舎5階第1会議室で開催されました。

開催概要

小委員会には個人8名、団体7団体、関係行政機関5機関が出席しました。  
今回は、再生普及小委員会の活動について及び自然再生の普及のためのパンフレットの作成についての意見交換が行われました。



「再生する湿原の川のBefore、Afterを見とどけよう」～ヌマオロ川～  
(第17回フィールドワークショップ)2016年7月26日

Discussion about  
Regeneration of Kushiro Marsh

このようなことが話し合われました。

再生普及小委員会の活動報告

■再生普及行動計画オフィス取組みについて

①WG等の開催

- 湿原学習のための学校支援WGの開催  
・第3回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ(平成28年8月1日)
- 再生普及推進のための連携チーム会合の開催  
・第4回再生普及推進のための連携チーム会合(平成28年12月2日)

②ワンダグリンド・プロジェクトの推進

- ワンダグリンド・プロジェクト2015活動報告書の作成、配布
- ワンダグリンド・プロジェクト2016の活動支援  
・イベント、パネル展での活動紹介  
・メールニュースでの活動情報発信  
・活動の場の提供、イベント等での支援
- フィールドワークショップの実施(平成28年7月26日)  
・第17回「再生する湿原の川のBefore、Afterを見とどけよう」  
～ヌマオロ川～

③情報発信・普及活動の拡充

- メールニュースの配信、掲示
- 市町村広報誌、新聞等メディアへの情報提供、記事掲載
- イベントへの出展、パネル展

事務局より再生普及小委員会の活動報告が行われ、再生普及行動計画オフィスの取組みや再生普及推進のための連携チームの活動、湿原学習のための学習支援ワーキンググループの取組みについて報告がなされた。



釧路市生涯学習フェスティバルまなトピア2016  
(2106年11月12日～13日)



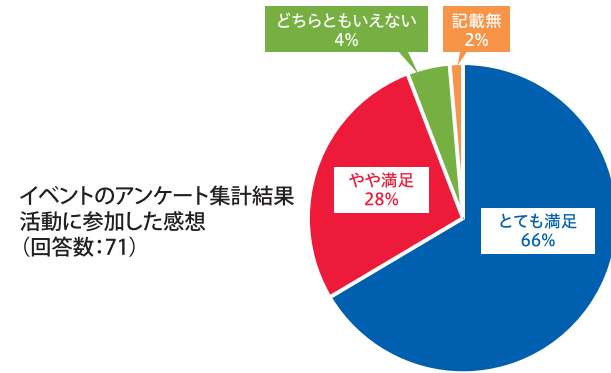
④ 自然再生事業の現地見学会及び自然再生活動への参加機会づくり

- 自然再生事業地周辺住民を対象とした現地見学会を他小委員会との連携により実施
- ワンダグリンド・プロジェクト登録団体による市民参加型取組みの実施

環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について

環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について説明がなされた。

・自然再生協議会及びワンダグリンド・プロジェクト登録団体が実施した市民参加の取組みについて、各イベントの報告及びアンケート結果の取りまとめを実施



イベントの実施報告書  
「ウチダザリガコとってたべよう 捕獲&試食体験」より

「湿原学習のための学校支援WG」の取組みについて

「湿原学習のための学校支援WG」の取組みについて説明がなされた。

■ 「湿原学習のための学校支援WG」の取組みについて

① 湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進

- 学校現場で活用可能な、湿原を題材とした学習素材を取りまとめ、情報発信と効果的な支援方策を検討  
→ フィールド情報マップとしてWEBサイトに取りまとめを行う。

② 自然再生の学校教育への活用促進

- 自然再生事業地を学習素材としたモデル授業の実施支援  
→ 本年度3校への実施支援を行った。(鶴居小学校、釧路湖陵高等学校、阿寒高等学校)  
→ 次年度の新たな実践づくりに向けて、学校関係者との意見交換、調整を行う。
- 再生事業地を活用した教員研修講座等の実施  
→ 本年度2件の講座等を実施。  
→ 次年度の研修講座の実施に向けて、教育委員会や研究部会等と連携し、関係者との意見交換、調整を行う。

③ 学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

- 教育委員会と連携したフィールドを活用した教員研修の実施、湿原に関する各種情報、自然再生への参加機会等の情報を教員に届ける仕組みを検討  
→ 湿原周辺施設来訪校を把握し、WGの取組みについて周知を図る。

- 市町村教育研究所事務局校・各部会との連携により引き続きWGの取組みについて周知を図る。
- 関心を持つ教員やWG構成員を対象としたメールニュースを引き続き配信し、ネットワークづくりを推進する。
- 学校からの問い合わせに応じた実践コーディネイト等の支援を引き続き行う。
- 次年度における教育委員会や研究部会等と連携した研修講座の実施に向けて、関係者との意見交換、調整を行う。
- 学校での実践発表の場に専門家とともに訪問し、学校の実情を踏まえた次年度の取組み方針を検討する。

自然再生の普及のためのパンフレット作成について

自然再生の普及のためのパンフレット作成について検討を行った。

進捗状況

第27回再生普及小委員会終了後

- ・第27回再生普及小委員会での議論を踏まえ28ページとする案を検討
- ・デザイン作成を作成業者へ発注

第28回再生普及小委員会

- ・28ページ案の決定
- ・パンフレットの題名について議論

第28回再生普及小委員会終了後

- ・作成業者及び各事務局間でデザイン調整
- ・第23回釧路湿原自然再生協議会にて報告。意見がなければ確定
- ・年度内印刷

パンフレットの原案についてこのようなことが話し合われました。(詳しくはホームページをご覧ください)

- 当初案では24ページの予定だったが、見やすくするため見開きを取り入れた28ページ版を作成した。ご意見をうかがいたい。
- 文字を減らして柔らかい字体を使用すると良い。中学生程度を対象にするならふりがなが必要になる箇所もある。
- 文字数、言葉遣いを検討して28ページ版でできる限り対応したい。
- 何をしているかわかりづらい写真は削除してはどうか。
- 書体の変更は可能。写真を間引いて組み直す等、意見を踏まえて再調整する。漢字変換やふりがなについては次の段階で調整する。
- 表紙の題名を決定したい。
- メインタイトルを「湿原とともに暮らす未来の子どもたちのために」としてはどうか。また、表紙をイラストにするとインパクトがあるのではないかと。
- タイトルに「パンフレット」を入れるのはやめた方がよい。
- 細かいデータをみたい場合はQRコード等で対応してはどうか。中学生程度であれば、曖昧な方がわかりやすい場合がある。
- 各委員会の持ち寄りということで、統一性に欠けている。
- 自然再生が目指すのは、30年前40年前の湿原である。表紙は写真を使ってほしい。また、湖と沼は全く違うものなので、表記はあくまで正確にした方がよい。
- 今回のパンフレットには「詳細についてはホームページを検索して欲しい」という記載があるが、知りたいページまで辿り着くのは容易なのか。
- やはりQRコードを積極的に取り入れる必要がある。

● 委員長 ● 委員 ● 事務局 ● デザイン担当者